

ヒラメ

Paralichthys olivaceus

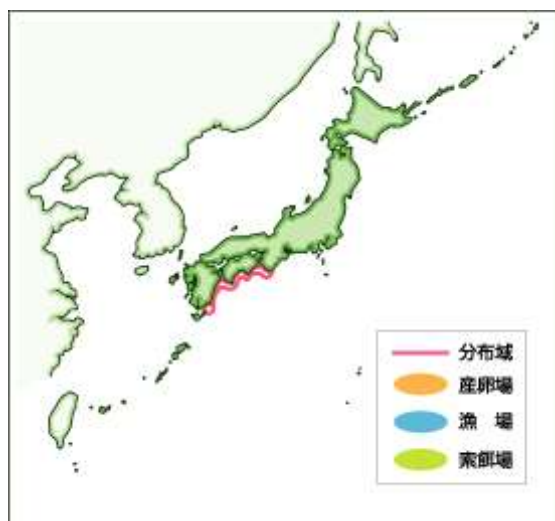
太平洋南部系群

担当：中央水産研究所



生物学的特性

- 寿命：15歳（本系群では詳細は不明）
- 成熟開始年齢：3歳（1歳で成熟するとの報告もあるが、本系群では詳細は不明）
- 産卵期：晩秋～初春（本系群では詳細は不明）
- 食性：ふ化仔魚は動物プランクトン、着底稚魚はアミ類、稚魚以降は魚類を食べる。
- 捕食者：不明

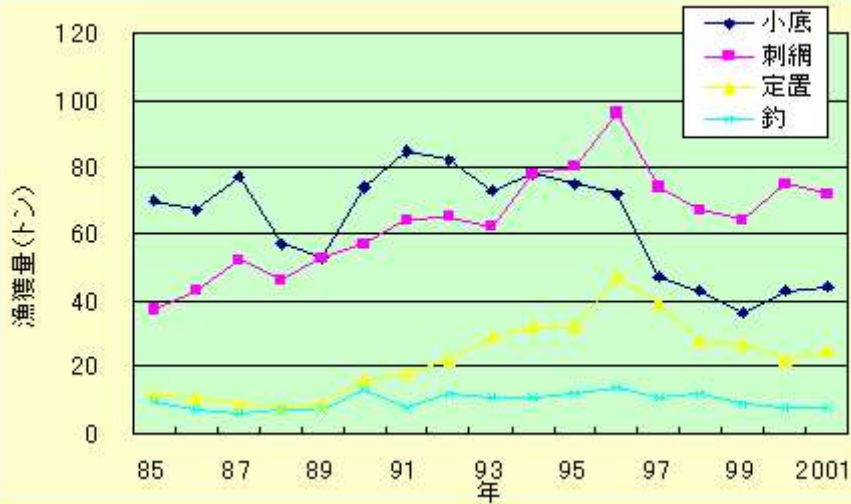
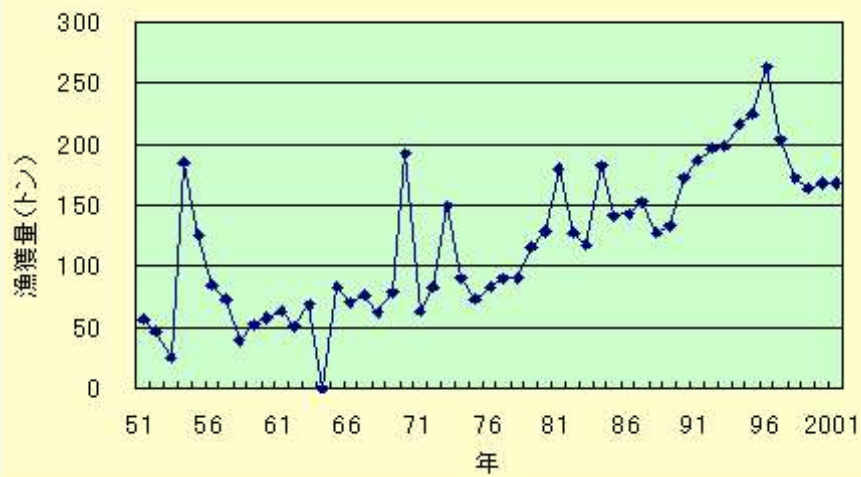


漁業の特徴

和歌山県を東限、鹿児島県大隈半島を西限とする太平洋南部海域でのヒラメ漁業は、漁獲量は少ないが、主に刺網、小型底びき網、定置網、釣等によって行われており、漁獲量はこの順番に多い。漁獲対象は1～2歳魚が主体であり、0歳魚の漁獲もある。種苗放流が積極的に行われている。

漁獲の動向

漁獲量の長期的傾向は、1951年（57トン）から2000年（169トン）まで大きな変動幅を持ちながら穏やかに増加している。近年では1996年の263トンピークに減少傾向に転じ、中水準へと移行した。2001年では168トンとなり、2000年の169トンと同水準で、1998年（172トン）以降は、横ばい状態にある。



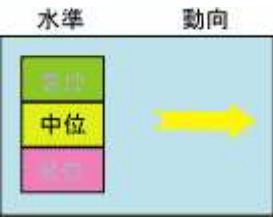
資源評価法

資源量を推定するのに必要な地域集団の分布範囲が特定できないこと、各県における漁業種別年齢別漁獲尾数等の資料不足等により、現状における資源量推定は不可能である。そこで、漁獲統計および水産試験場資料を用いて漁獲量を集計および解析することで資源評価を行った。

資源状態

ヒラメ太平洋南部系群の漁獲量は、大きな変動を伴いながら推移している。過去20年における漁獲量の最小値（117トン、1983年）から最大値（263トン、1996年）までの幅を三分割すると、2001年の漁獲量（168トン）は中水準に属す。また、5年間の移動平均をとった場合の2001年の値は164トンであり、漁獲量とほぼ同じ値を示すことが

ら、2001年の資源水準は中位であると判断される。1996年の漁獲量は263トンで1951年以降の最高値を記録した。1997年から1998年にかけて急激な減少がみられたが、それ以降は同じ水準で安定している。2001年における主要漁業種類による漁獲量は、刺網以外は2000年より増加しており、資源動向は横ばい傾向と判断される。



管理方策

ヒラメ太平洋南部系群は中水準の横ばい傾向にあると判断されるが、漁獲量が比較的高いレベルにあると思われるので、現在の漁獲水準を維持すれば資源は高位に向かうと考えられる。そこで、管理目標は現状の漁獲量の維持とする。ただし未成熟魚の保護や種苗放流効果に関する調査が必要であると思われる。値が安定している過去4年間の平均漁獲量をABClimitとして、総漁獲量の上限值を設定する。また再び資源量の減少を招かず現状の中水準を維持するための安全率を考慮してABCtargetをABClimitの8割として算定した。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B Climit	Cave4-yr	168	-	-
A B Ctarget	0.8ABClimit	135	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量は1951年から大きな変動幅を持ちながら緩やかに増加
- 1996年に過去最高になるが、1997年には急激に減少
- 1998年以降は横ばい
- 資源水準は中位で、横ばい状態にある。

管理方策のまとめ

- 現在の漁獲水準を維持する
- 若齢魚の保護に関する考慮が必要